

## 脅威度分析調整機関 OCAMって何？



OCAM (L'Organe de coordination pour l'analyse de la menace) は2006年12月1日より始まった機関で、内務省と法務省との共同任務の下にあります。本部はブリュッセルのRue de la Loiにあり、GIA (反テロリスト対策グループ Groupe inter-forces antiterroriste) を引き継ぐものです。ベルギー国内でのテロリストや過激派の脅威に対し、戦略評価を機敏に判断します。

国家の安全保障、一般的情報やセキュリティサービス、連邦および地方警察、税関局や消費税管理局、外国人管理局、内務局、交通局、外務局などの各担当局から来た情報を分析するのが主な仕事で、各担当局の専門家から成り立っています。脅威評価は、安全保障の責任を委ねている政治、行政、司法当局が決めることとなっています。これらの機関は、起こりうる脅威に対抗するために適切な処置をとることが仕事です。

## テロ事件の犯人の埋葬はどうなる？

ヨーロッパのジハード主義者がテロ事件で亡くなったあと、その家族は不名誉と恥を感じ遺体の引き取りを拒否することが多々あります。ましてや、犯人の祖国は何もしてくれません。2015年11月13日パリで起こったテロ事件の容疑者の1人、ベルギー・モロッコ人のアブデルアミド・アバウド (Abdelhamid Abaaoud) の父親は、息子の遺体は引き取りたくない、モロッコで埋葬して欲しいと言っているそうです。しかし、モロッコ側は、この希望に対し何の回答も出していません。隣国のアルジェリアは、テロ事件を起こした犯人の葬儀を拒否したそうです。

モロッコがアバウド容疑者の葬儀を拒否したら、どうなるのでしょうか。家族は、ベルギーでの葬儀に奔走するに違いありません。一家はブリュッセル市モーレンバーク区に居住していますが、この区にはイスラム教徒の埋葬施設がありません。したがって、この区でのアバウドの葬儀は行えない、むしろ多宗教の共同墓地があるスカールバークで行われるだろうと Françoise Schepmans 区長は語っています。共同墓地の責任者は、現在どこからも葬儀の依頼は来ていません。もし遺体が来るのであれば、テロリストとしてではなく、ただ名前を明記するだけで語っています。どんな人々でも埋葬される権利を持っています。そして、亡くなった人に敬意を払う家族が罰せられることはありません。さらに、Bernard Clerfayt スカールバーク区長は、もし、依頼があれば、セキュリティ上可能かどうかを警察に問い合わせ、必要な処置を取ります。まずは、共同墓地の責任者が埋葬を認めるかどうかを決定すべきです、と語っています。

## <4段階の脅威度評価>

- 1 テロの可能性が低い
- 2 テロの可能性が微妙にある
- 3 テロの可能性があり、発生し得る
- 4 非常に危険な状態であり、事態は切迫している

この4段階の評価は、一般的または例外的に用いられます。もともとベルギーの脅威度評価は2でしたが、2015年1月にパリで起こった悲惨なテロ事件の後、危険度の高い地域は3に上昇しました。そして、1月15日のVerviers (リエージュ近郊) でのテロ事件の後、ベルギー全土の脅威度が3になりました。その後、3月9日にブリュッセル市内およびアントワープ市内のユダヤ人コミュニティの建物、欧州の政府機関、大使館、ブリュッセルの裁判所、いくつかの省庁以外は、脅威度が2に戻りました。

11月21日からブリュッセル市内の脅威度が最高の4になり、翌週の月曜、火曜は地下鉄が運休し、学校が休校という事態に陥りました。11月26日から脅威度が3に戻りましたが、テロの危険はいつでも起こりうるということを想定して、警察や軍隊が昼夜警備に当たっています。

街では、これら警備隊へのお礼の気持ちに暖かいカフェをサービスする光景も見られました。ベルギーは平静を保っていますが、犯人が見つかってはいませんので、十分注意しながら生活しましょう。

墓地の責任者は、共同墓地側に決定権があることに驚いており、どちらかというと11区の自治体に伺うべきだと述べました。墓地管理団体の長は、スカールバーク区のイスラム共同体の中にVerviersでの事件の実行犯1人の遺体を埋葬したことを知りませんでした。遺体はひっそりと埋葬され、埋葬時には遺族よりも警察が多かった。これは、トラブルを起こさないための最善の方法で、現在何の障害もありませんと、共同墓地責任者の弁。

このように話題となった人の墓をベルギーの地に設けるのは、イスラム教徒の巡礼地になるかも知れないという懸念があります。フランスでも2015年1月のCharlie Hebdo と Hyper Cacher の事件後に、この件について議論されました。Kouachi 兄弟と Amedy Coulibaly の住んでいた地区の市長は、不本意に遺体を受け入れ、墓碑は無記名にしました。スカールバーク区長いわく、墓碑には必ず名前が書かれているので、名前がなければすぐに誰の墓か分かってしまい、良い解決策ではないと。パリでのテロ事件容疑者の1人 Brahim Abdeslam の家族は、ベルギーでの埋葬を望んでいます。彼はモーレンバーク区在住でしたが、国籍はフランスです。多宗教の共同墓地は、ベルギー人でなくともブリュッセルに住んでいる人を埋葬するべき、誰でも埋葬される権利を持っていて共同墓地責任者 Ludo Beckers 氏は述べました。管轄当局がどのように判断するかが、今後の行方です。もし Abdelhamid Abaaoud と Brahim Abdeslam が共同墓地に埋葬されれば、3人のテロリストの墓があることになり、イスラム教徒の巡礼地になることは間違いありません…。

\*この新聞記事掲載の4日後に墓地管理団体の長は、墓地団体が遺体埋葬をしないという決定を下した、と新聞社に連絡してきました。

2016年も JSTV で日本のテレビ三昧

2016年大河ドラマ 真魂 主演 堺雅人

富士ファミリー 1月2日(土)放送

JSTVを1週間無料で体験!

お申し込み後すぐ視聴 インターネット視聴

お問い合せから視聴まで日本語で [www.jstv.co.uk](http://www.jstv.co.uk) Tel. +44 20 7426 7330

NHK、民放、各権利者団体から正式に許諾を受け放送している合法的なサービスです。番組内容や放送日は変更されることがあります。